

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592800049		
法人名	株式会社 博コーポレーション		
事業所名	グループホーム 西の森		
所在地	秋田県雄勝郡羽後町西馬音内字本町102		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、家庭的な雰囲気大切にしております。終の住処として医師や訪問看護と連携しターミナルケアを行えるよう準備を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の機能訓練指導員による機能訓練が毎月行われ、指導員の助言を受けながら運動を日々の生活に取り入れています。運動を兼ねて車椅子利用者を押して歩く利用者もおられます。活発に活動される利用者が少なくなったものの、職員の子どもがホームを訪れて読み聞かせをしてくれたり、地元のボランティアが度々訪問して利用者の相手をしてくれており、地域との繋がりが保てるように支援されています。また、シャワー浴のみであった利用者も浴槽に浸かることができるように職員のローテーションを工夫し、個々の希望に沿った入浴支援ができる体制に変更されており、理念に沿ったサービス提供ができるよう取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げいつも目にする ことで意識し、全体会議のみならず、普段の 申し送りや会話でもカンファレンスを行って 意思統一を図っている。	家庭的な雰囲気の中で生活を続けていくた めに、理念に沿ったサービス提供ができる環 境となるよう話し合いながら、支援されていま す。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	町内会行事に参加したり、散歩や買い物、 外掃除などで挨拶や会話をおこなっている。	地域資源を利用できる方が少なくなっていま すが、職員が地域のクリーンアップに参加したり、 演芸披露や昔語り、話し相手をしてくれる地域の ボランティアがホームを訪れ、利用者が地域と関 わりながら生活できる機会づくりをされています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝 え、地域貢献している	管理者は認知症サポーターとして地域の会 合や研修会に参加し、相談支援を行ったり している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	2ヶ月に1回開催。ホームからの報告を行 い、参加者様からの質問・意見を受け、 サービス向上に反映している。	行政、町内会長、民生委員、ボランティアが 参加して質疑応答が行われ、参加者からの 情報を運営に活かせるように努力されていま す。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場を訪問し、認定更新や介護サービス情 報提供など指導いただいている。入居情報 を提出している。(入居および退去状況)	制度上の不明点や生活保護受給者の相談 等、担当課、包括支援センター及び福祉事 務所と連携し、利用者の支援に繋げていま す。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	身体拘束廃止を目標とした勉強会を行い、 身体拘束をしないケアを職員間で話し合っ た。	スタッフルームに掲示して身体拘束を行わな いケアの認識を共有し、利用者の状態の変 化に伴った対応策を職員間で話し合われて います。	止むを得ず行う場合、家族の同意を 得るとともに、関係する帳票を整備し ておかれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法および虐待防止研 修会に参加し知識を深め、職員にも研修内 容を報告し認識を共有した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が成年後見人の研修会に参加し、後日施設内勉強会を開催した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や見学・面会の際にも充分お話を聞き、不安や疑問に答えている。また入居時契約書・重要事項説明書の説明を行い、さらに不安や疑問に答え、信頼関係を確立する努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議にご家族様に出席して頂き意見、要望を伺い、全体会議にてそのことを話し合い運営に反映させている。	家族の高齢化に伴って面会が少なくなっていますが、請求書送付時に近況を報告して関心を持っていただけるように配慮されています。必要に応じて電話連絡し、要望の引き出しに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議に社長、専務、管理者が出席し職員の意見や提案を聞く機会とし反映させている。	職員から意見や提案が出た時にはその場で話し合うようにしており、「まずやってみよう」という姿勢で積極的に取り組み、活発な意見交換がケアに反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長・専務が定期的に来所し、職員の状況を把握している。必要に応じ職員の個別面談を行っている。職員の向上心をアップさせるような環境や制度の整備に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ段位制を導入しており職員の向上心アップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設への研修を行ったり、福祉大会に参加し町内の他事業所様と交流し、良い所を自施設にあった方法に変化させサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1でお話し、ご本人様の不安や要望を伺いどのような支援をするか具体的に話あい信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの聞き取りには充分時間をさき、不安や要望を伺い、今までの介護をねぎらう言葉がけし、今後の協力要請が出来るような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持った対応をし、生活の知恵や知識を教えていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙をご家族様にお送りしており、入居者様の近況報告を行っている。また、写真を同封したりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域ボランティアとの継続的交流を実施。また演芸会などを開催し、地域住民の方々にホーム開放し、交流している。	病院に近く、町の中心部にあることから知人に会うことができ、ボランティアの訪問時には近隣にも案内して交流が継続できるように取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中に職員が入り、昔の話や生活について話をし会話を広げ、入居者様同士の関わりを築き自然と入居者様同士が思いあう様になった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議を開催し、ご本人様、ご家族様の希望や意向の把握に努めている。	日々の会話や表情、また、行事の際の利用者の様子から意向を把握してアセスメントに繋げています。気付いたことは連絡ノートにその都度記載し、周知を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、担当ケアマネ様に同席して頂きアセスメントを実施し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前のフェイスシートを参考にし、入居後の生活を経過記録を用いて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、ご本人様、ご家族様の希望や意向を把握し、主治医の意見や職員の意見など反映し、アセスメントを行っている。	職員の意見を参考にしてモニタリングを行い、介護支援専門員がそれぞれの意見を反映した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居1ヶ月は個別記録の他に経過記録を用い、入居者様の生活パターンやケアの実践・結果を記入する事で、職員間で情報共有し、ご本人様にあった介護計画に見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が住み慣れた土地で安全安心な生活が営めるよう、警察や消防、町内会、社協や包括など地域資源を活用するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前からの医療機関にそのまま受診している。受診はご家族様が同行出来ない場合は職員が同行対応している。	本人の希望する医療機関で受診されており、職員が受診介助され、記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており月4回の訪問実施。前日に入居者様の状態報告している。訪問日に相談し指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師、看護師に情報提供している。入院中は職員が面会に行き、看護師から状況・状態を聞き、回復状態を把握。退院のめどや、退院後の注意点など指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様と話あい、思いや希望を把握し、医師と相談し訪問看護とも連携をはかり出来る事を増やす努力を行っている。	遠方の家族はホームでの看取りを希望されており、かかりつけ医の協力を得て、希望に応えることができるように検討されています。看取り研修後の伝達研修を行い、利用者の状態の変化に対応できるよう体制を整える努力をされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応について日頃から話あいをしている。初級救急救命講習を受講済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、地域消防団の方々からアドバイスを頂いた。また5月の運営推進会議の際、羽後交番署長様より、緊急時に備えて入居者様の顔写真等の情報提供の依頼がありご家族様に説明、承諾いただき提出している。	夜間想定訓練を実施し、地元の消防団の協力を得て誘導訓練、通報訓練が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念をもって声掛けし、さりげない対応を心がけている。	利用者の性格を把握した対応をされています。トイレ誘導の声かけにも配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状態に応じ選択し易い問いにしたり自己決定できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れで入居者様の体調を考慮し、希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	定期的に訪問理髪を利用したり、更衣の際はご本人様の意見を聞いて準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等を職員と入居者様と一緒にこなしている。	地域で昔から食べられている料理の提供や外食を取り入れ、出前の日を設ける等、食事が楽しいものとなるように工夫されています。利用者ができることを手伝っていただき、食べこぼしにもさりげない支援をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状況や状態を把握し、随時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入居者様の状況や状態に応じスポンジブラシなどを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、時間でトイレ誘導を行っている。	必要な利用者には、排泄パターンを活用してトイレ誘導し、残存機能維持への取り組みが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らずを目標とし、野菜を中心とした献立にしている。午前午後にお茶の時間を設けている。その他にも入居者様の希望や体調に応じていつでも提供している。午前には牛乳を提供。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の状態が重症化しており、1週間に2回の入浴になっているが、自立している入居者様の希望があれば対応している。	希望があれば入浴日以外でも対応されています。職員のローテーションを工夫して、車椅子の利用者もできる限り浴槽に浸かれるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的にし、夜間良眠出来るように支援している。入居者様の状態をみて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用等について理解し、症状の変化を確認した際は主治医、訪問看護に報告・相談し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭きなど出来る事を役割分担している。レクレーションを工夫し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	系列施設の催しや、散歩やドライブに出かけている。また町内会行事や福祉大会などにも参加している。	利用者の希望や体調を考慮して戸外に出かける機会をつくり、気分転換が図れるような支援が行われています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っているが、自由に使用出来る。入居者様の希望や、力に応じて所持されている方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるようにしている。希望があれば職員がかけ、その後入居者様がお話出来る様に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールに季節の花を飾り、廊下やホールにも季節にあった装飾を施している。匂いにも気を使い、消臭剤等を使用している。	あまり飾り立てずに落ち着いた雰囲気づくりに配慮され、特に利用者が集まるホールには大きな額がさりげなく掛けられています。反面、生活感がなくならないように花を飾る等、生活の場をつくるための工夫をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールでは席を固定させず時折席替えをしている。テーブル配置も同様に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れた物を持ち込んで頂き、安心感を持っていただくことで居心地よい生活が出来るよう対応している。	床暖房の設備がありますが、居室の位置によって寒暖の差があるため、暖房器具を増設して体調を管理し、また、利用者によってベッドの高さを調節する等、安心して過ごせる環境づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が混乱しないように自室に名前をつけたり、各箇所に表示をしたりしている。必要箇所に手すりを設置している。		